

敵、米國の若者は
 十八才で壯丁となる
 敵、米國の大學は
 とうの昔に姿を消した
 敵、米國の工員は
 その三分の一が女である
 敵、米國の軍隊には
 女も参加してゐる

—この現實をよく視ることだ—

断乎と撃たん敵の反攻



「時の立札」は他へ轉載との他に御利用下さい

敵機を誘導すべく、新島
 地に設置のわが高射砲部
 隊 ニューギニア戦線
 撮影 同盟通信社

攻反の敵した撃と乎漸



一、対日反攻計画
 英首相チャーチルは去る八月、シシリーの攻防戦に勝利し、カナタのケベックに飛び、ルーズベルトと最後の世界戦争相地方策について協議し、あつた。會議はイタリヤ陣仗問題も含め、長時日に行つたが、九月半は歸英したチャーチルは二十一日の議會において、対日戦について次のやうに述べてゐる。
 『日本に對する戦争を激化するために、インドに東南アジア總司令部が設立された。總司令官マウントバッテン提督は近くインドに赴任するであらう』
 また、ルーズベルトは九月十七日、政府を議會に送つて對日戦について次のやうに述べてゐる。即ち
 『日本は千島列島からソロン群島に亘る廣大な戦線に依然として居る地を占めてをり、この防衛線を突破するには、われわれは數ヶ所での連続的な攻撃を加へ続けなければならぬ』
 と述べ、さらに
 『日本の国力は文字通り完全に弱体化され、戻り決して崩壊しないであらう。これ以外に何等かの方法があるかの如く考へようとするのは最も馬鹿げてゐる』
 と述べて、對日反攻戦が今後とも今まで同様、激烈な犠牲の上に立つて進行されるべきを明らかにしてゐる。西太平洋方面については言及を避けてゐるが、この點チャーチルは『既に太平洋の各方面から相當大規模に攻勢は開始されてゐる。米國の主力はこの大洋に傾注されてをり、しかもその攻勢の主なる重鎮はマヤカーナが大規模攻勢を指揮しつゝあるソロン、ニューギニア方面に置かれてゐる』と述べてゐる。さうして、チャーチルの言及しなかつたビルマ作戦について、ルーズベルトは『ビルマにおきては戦術的持久戦の時既に終り、攻勢に轉じた』と述べて、英軍がこの方面で本格的反攻作戦を開始したことを言明してゐる。この他、敵側の諸情勢を綜合してゐるに、敵は今後の對日戦について、だいたい次のやうに企圖してゐるのではないかと、一つの判断が下される。即ち英軍はインド、セイロンを作戦根據地としてビルマ軍を主目標とし、特にインド洋の海洋の特性を利用して、マライ、その他南方地区に對する毒圏作戦を企圖し、米軍は南洋を作戦根據地として、現に進行しつゝあるニューギニア、ソロン群島に全力を集中し、比島の軍を當面の目標としてゐるのではないかと、これと同時に、わが本土に對する空襲もときどき行ふであらうと、かやうに考へられるのである。

二、反攻實施の時期

さて、かやうな對日一大反攻作戦をいつ頃から始めるであらう最において必勝を期し得る戦を準備する。軍需省設置はその一つの手段である。
 また、廣大なる大東亞の各地域を守る軍隊としては、そこを基礎として死守する。
 軍以外、一般國民としては、軍需生産、食糧の確保等、戦力の増進をさらに強化する一方、國土防衛をいよゝ強化して、戦力の保持増強にあらゆる手段方法を講ずる等、一切を戦勝獲得に集中する。
 もう今は若い若きも、男も女もない。一度すべて戦線配置について、來らば來れで一時時宗の決意を以て、吾らは新らんの擧へで敵を徹底的に撃滅し、以て光輝ある神州日本を守らなければならぬ大東亞時局となつたのである。 陸軍省 輿論部

かが問題になるが、これは既に南太平洋方面では開始されてゐるのである。しかしビルマその他、全面的には、この情勢から推察したならば、早ければ秋の暮れ、または年末、年始と一舉考へられる。さうしてまず、反攻力を強化し、連続不斷的攻勢を實施することであらうとみられるのである。米國當局者も、今年年は米國民として未だかつて見たことのない苦難を嘗むなければならぬ時期であると國民の犠牲を要求し、果敢的な空襲を戒めてゐるところからみても、敵は従来の長期消耗戦の不利なことを悟り、最近短期決戦主義を考へて改めて考へることが分る。

三、反攻作戦實施の要領

しからばその進攻作戦はいかなる方法によるかを更に考へてゐるのに、これは大體において、かのシシリー、またはアッソ島攻撃戦のときやうに、まづ多數の航空機力を以て各島嶼の無抵抗孤立化を圖り、それに空襲と艦砲射撃の火力投擲の下に、多數の上陸用舟艇を以てする上陸作戦、しかもそれは勢めて我が配備の閉鎖、または手薄の地點を狙つて、これに上陸地點を求め、戦法を用ひることであらう。そして上陸點確保のため輸送機、グライダイター等を利用して、その兵力の強化を圖り、さらに輸送船艇による兵力、殊に機械化兵力の強化を圖る等、科學技術と生産量とを唯一の必勝信念の根拠として頼むものとみられる。
 以上述べた我が第一線に對する敵の攻勢作戦と共に、後方のわが日本本土に對する空襲も同時に企圖するものと考へられるのである。

四、敵の兵力配置状態

次に、しからば各方面の敵兵力配置如何と考へると、勿論これは、はつきりしたことはないが、次のやうにいひ得るであらう。
 まづビルマ方面に對する敵であるが、インドとビルマとの國境には英印軍十個師團以上と思はれる地上部隊が我が第一線と對峙してゐる。飛行機は全印に米英を合し總計一千機位であらう。またセイロンを中心とするイギリスの海上勢力として、戦艦、航空母艦を合し數隻、その他の艦艇三、四十隻位のものも配置されてゐる。この海上兵力は、今度イタリヤ海軍の敵側への艦返りによつて、イギリス地中海艦隊主力のインド洋艦隊も近い將來行ふものと考へなければならぬ。

重慶支那軍は雲南省境に約一、三十個師團のものが、我が國境部隊と對してゐる。重慶側空軍は我が航空部隊の積極不斷的攻撃により、その戦力は著るしく低下せしめられてゐるのであるが、

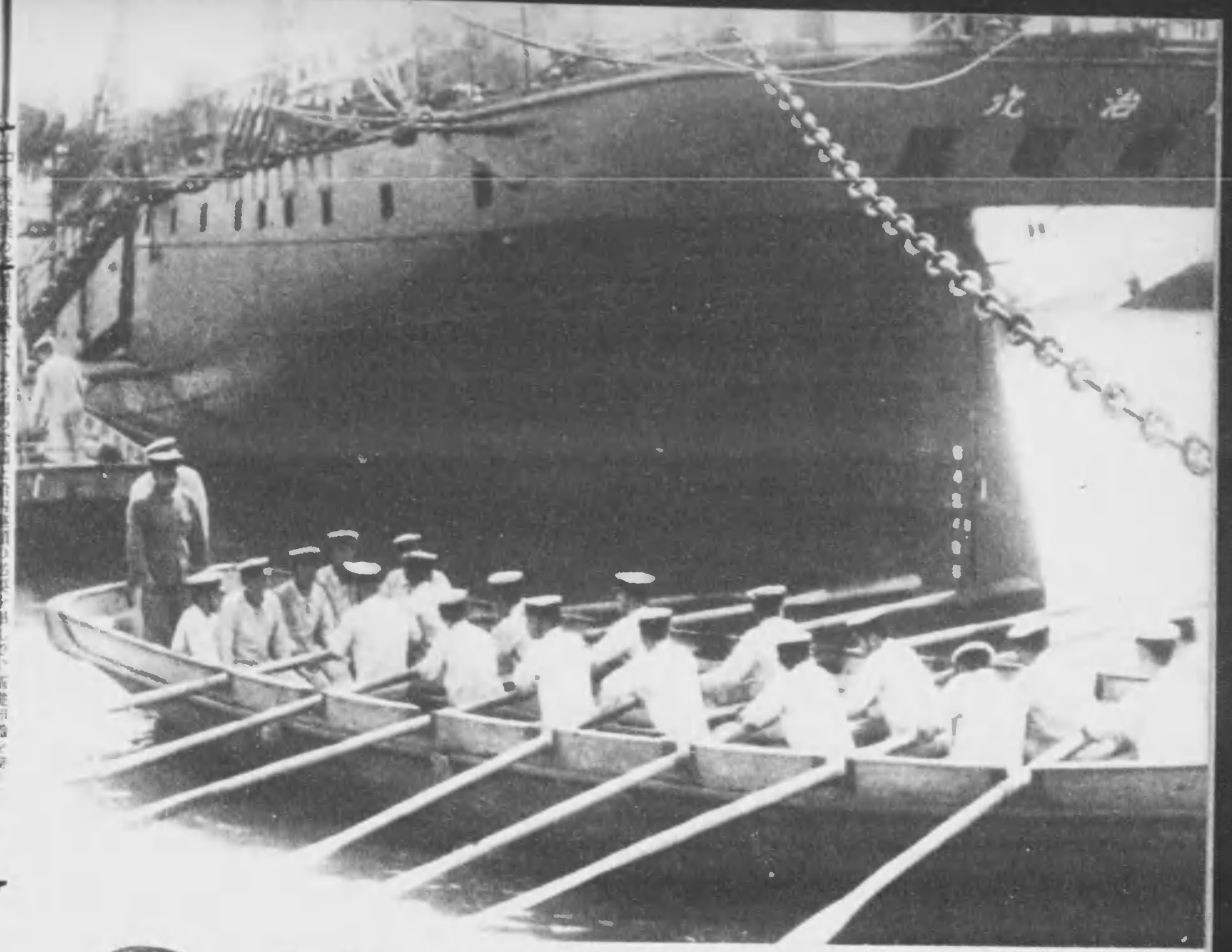
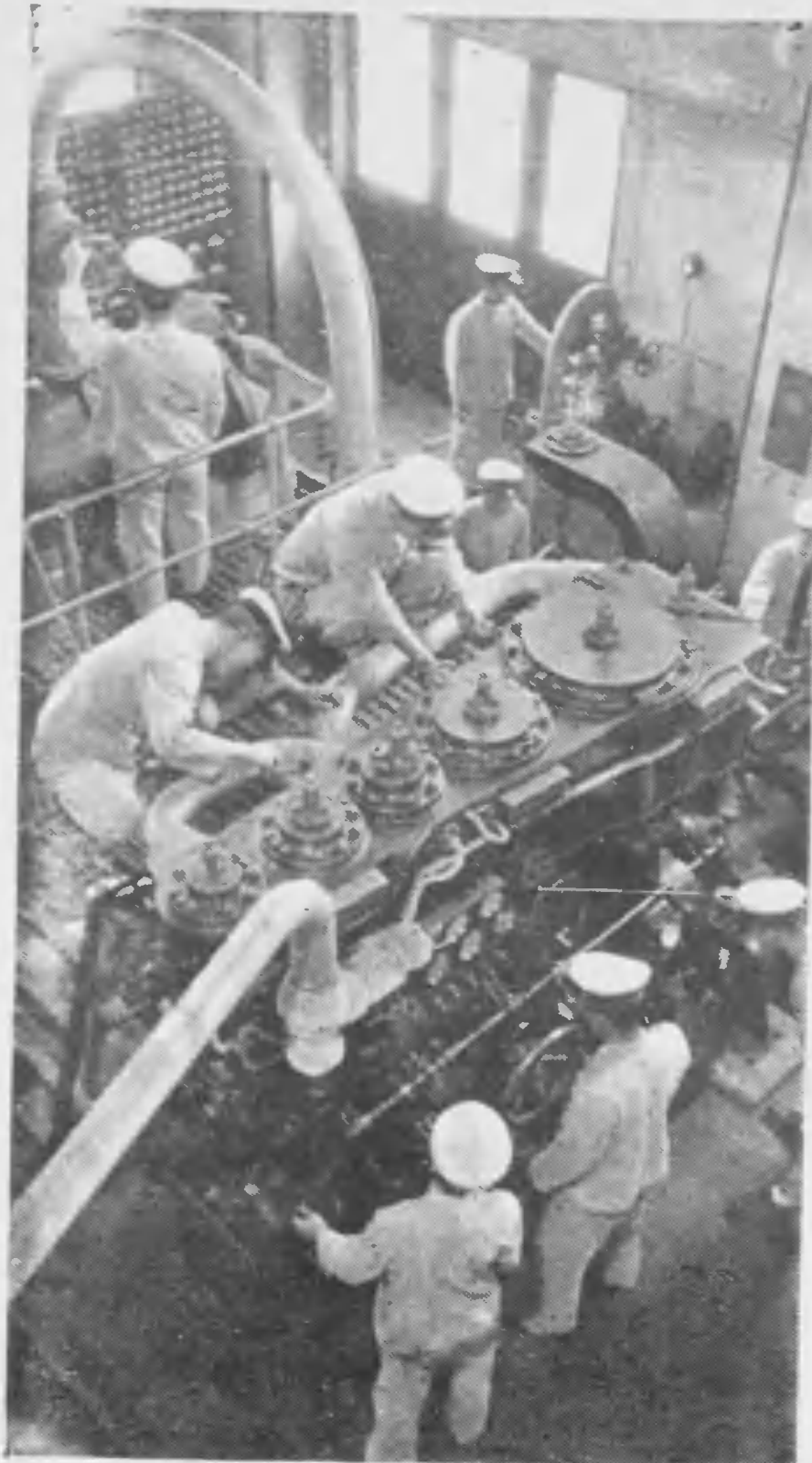
敵米英は今後その強化に一層努力を注ぐものと思はれる。今も時時敵艦が占領地内に飛來してゐる。次に南太平洋方面の敵情をみるのに、南洋、ソロン方面の敵艦は一千餘隻、その後方、南洋、ニューギニアにも同数のものが配置され、敵はこの航空機の消滅を継続して、日本の航空勢力を衰弱することに力をつけて戦勝を獲得せんと企圖し、戦線なる我が陸海軍將兵に華撃も亦も、積々新手を補充して進軍して來てゐる有様である。ソロン、南洋方面の敵陸上兵力は十數個師團、海上艦隊勢力は明らかではないが、主力艦十數隻を有する米海軍の主力であることは疑ひない。
 その他、ハワイ方面にも飛行機一千機、航空母艦數隻のもの、アラスカ、アリューシャン方面に飛行機數百、陸上軍數萬のものがある。

五、我が對策

以上、敵の對日反攻なるものの概観を具體的に考へてみた。これは勿論、一つの想像であり例案であつて、この通りになつて實現するかどうかは、今後の戦局の進展に俟たなければならぬ。しかし今はその實現が如何なる程度のものであらうかに對し想像を逞しうしてゐるべき時期ではない。われわれとしては、最悪の事態を想定し、これに對する徹底した覚悟、固太い士氣、萬策を盡して、出来る限りの戦備の充實を圖るといふこと以外に對策はない。

軍としては、今日の戦局に決定的影響を及ぼしてゐる航空機力の飛躍的増強に向つて全力を集中する。實において敵に優ると共に、今日まで量においては敵に敵し難いといつてつた観念を打破し





へ海の戦決 く高水營の尉少軍海

東京高等
商船學校

「擲舟意」——短艇帆走の
實習へ備き出す海の丈夫に
は、胸が折れてもやまざる
不撓の國志が燃えてゐる



生徒集會所には、短艇競争に勝つたといつては凱歌があ
がる。上級下級生の切實な生活は寮生活の中に行はれる

南に北に、星と羅針の標章は
輝く。熾然たる日章旗の下、
越中島出の商船士官は征く

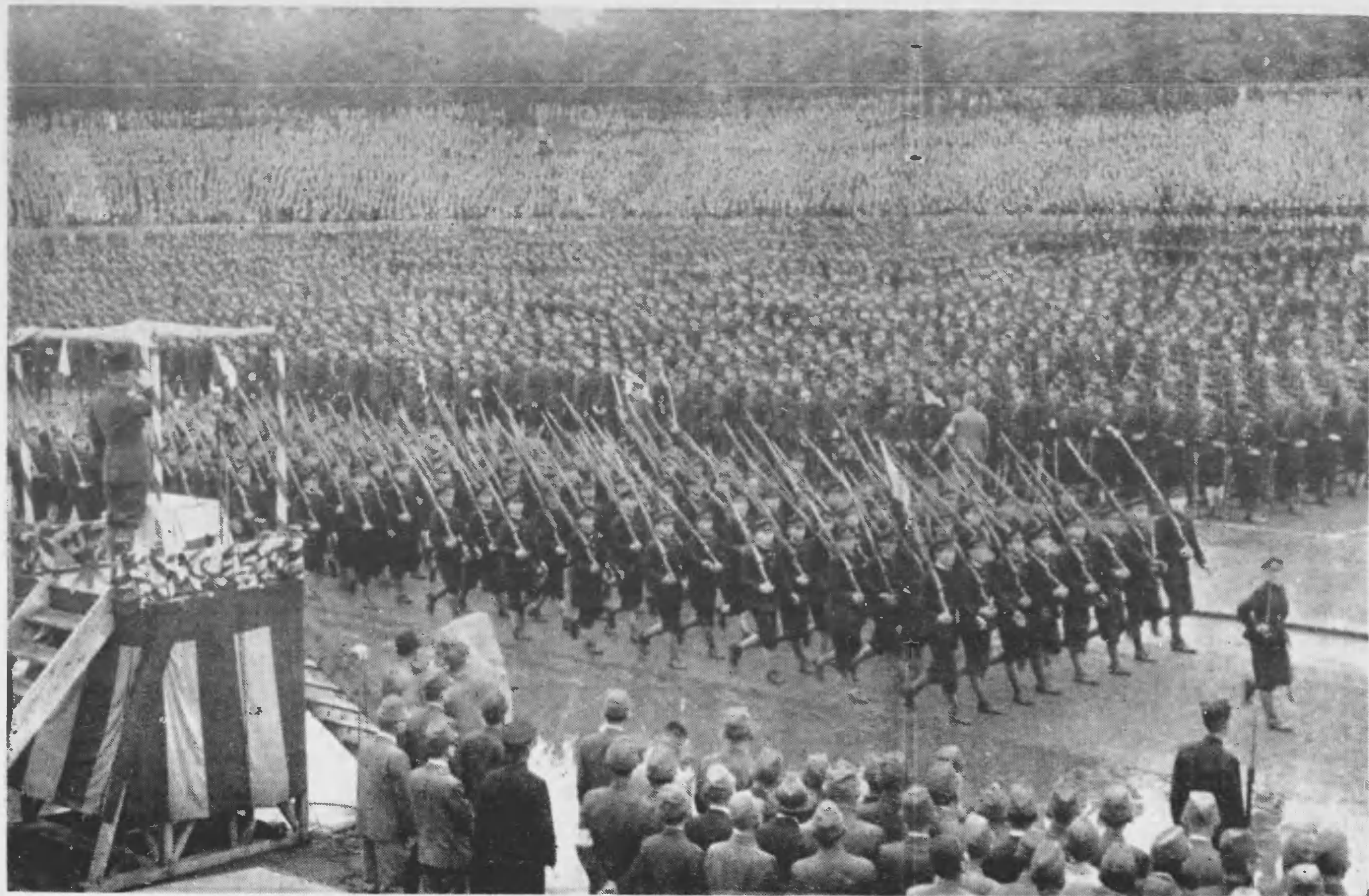
山原と魚雷林の海を乗切り、勝利の軍需資材をす
つしりと積込んで輸送船は進む。勝敗の鍵たる船を動
かす船員、殊に高級船員の多くは、高等商船學校で養
成された海軍豫備將校であつて、いはば商船士官とし
て決戦の海洋第一線に闘つてゐるのである

東京、神戸、清水の三高等商船學校は、いづれも専
門學校合に基つてゐるもの、生徒は入校と同時に
海軍兵籍に編入されて海軍豫備生徒となり、江田島を
總はせる海軍式の教育を受ける。南太平洋の海戦から
歸つたばかりで元軍一杯の日々は、た上官や下上官
が、心魂を傾けて、學校即戦場の精神を生徒に叩きこ
む。二年生の座學課程と全員寄宿の生活によつて、
生徒は不屈の精神力、逞しい體力、そして航海に必要
な學識技能を修めて卒業する。さらに航海科は大成丸
などの練習船に乗組んで六ヶ月の洋上訓練を、機四科
は工場實習を、それを行つてから、ともに海軍砲術學
校に軍事學を學び、修了とともに海軍豫備員たる海軍
少尉に任ぜらる。

入校しては商船士官として、出でては海軍士官として、
大洋を晴れの舞臺に、戦場に、海國男子の本領を發揮
するときは今だ。東京、神戸、清水の三高等商船學校で
は、十一月二十日締切で君たちを呼んでゐる。採用の
人員は航海科、機四科ともに八百五十名づつで、志望
の學校を選択することは出来ないが、採用された者は
適當に三校に配分される。授業料は徴収しない。生徒
は校内に居住するほか、食費、教科書および被服費の
一部は支給される

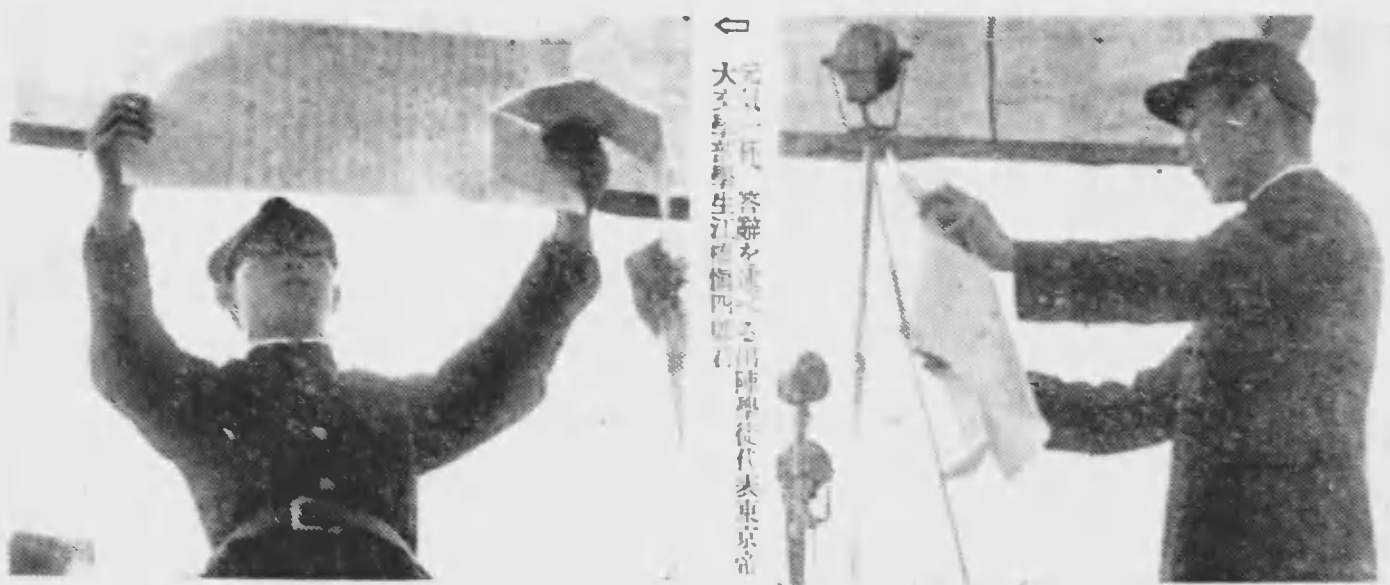
志願者の資格は、大正十三年四月二日から昭和三年四月一
日までに出生した者、中學高等四年を修了した者、甲種
實業學校を卒業した者（昭和十九年三月終了した者、甲種
の者を含む）専修を合格した者に限る。試験地、身體検査見
察等、そのほか支那は、東京高等商船學校、東京商船會社
中島町、神戸高等商船學校、兵庫海軍砲術學校、清水
高等商船學校、清水市町、三校のなかから、志望の學校一
か所を希望し、四角の手封入

試験のときは即ち直前に試験科目を生徒に、生徒でも
なくても一人前の試験士としてその日の任務をこなされ



出征の感と胸に
出陣學徒壯行會

出陣學徒を送る右から
文部大臣、東條内閣総理大臣、
陸軍大臣、海軍大臣



出陣學徒を送る女學生の歡呼
米英軍威の歩式空々、出陣學徒の分列行進と
若くは國旗の文

十月二十一日文部省主催の「出陣學徒壯行會」が秋風漸く、激しい晴陽輝き、東條技場に盛況大に舉行された。可成り、かつて今日の學徒がこの日を期して技を練り、武を磨いた聖域、中國學徒の今日よりは顧みなき至誠の熱情と、これを送る國民の赤誠は、是れい奔流をなして流り溢れ、「壯行の祭典」は世紀の感服の中に終結したのである。

それ／＼は、東條總理の壯行の辭「それ／＼の祖先たるが子の如く、一軍一隊の心持をもつて、それ／＼一國一國は心から敬意と感謝をもつて諸君の壯行を祝ひ送らんとするものである」と、さらに繰返さる。そして、戦局いよいよ苛烈な今日、青年學徒諸君が「昭和の勲代」に於ける青年學徒の不共なき忠誠と必勝の信念とをもつて祖國の重責をなすし、後世に永く日本の光輝ある偉業を築き上げんことを心から期待してやまない

一 東條代表 陸軍大臣 學生代表 津田君の

元一氏 答辭を述べる出陣學徒代表東京帝國大學學生 津田四郎君



兼行作業 敢然晝夜 良家の女子も

古河炭好間業所兼行作業隊
女子労働報隊

二月月ごと海沿の各産地から採掘された
一職地を掘り出し、運搬するの
二月月ごと海沿の各産地から採掘された
一職地を掘り出し、運搬するの

二月月ごと海沿の各産地から採掘された
一職地を掘り出し、運搬するの

「このまゝ歸りましては膝頭で手も折れよと、投げて下さつた村の方々に、どうして堂々と對面できませうか。必ず増産期間を立派に奉公して晴れの凱旋をしよう、一同固く誓ひ合ひました。合津魂のこもつたなよ竹の婦人の赤心は、今なほ私共の五體に躍動してをります。どうか、弱き身ながら至誠にもえる合津女性の切ない願ひを遂行させて下さいませ。」

これは去る三月、勸務奉仕を豫定より一ヶ月延ばして石炭増産期間に協力しようと、血書で申出た福島縣河沼郡堂島村女子勸務報隊一同の手紙の一節です。

石炭がなければ、飛行機も兵器も造れません。軍需工業の原動力である石炭の増産に必死な、こゝ古河炭好間業所には、昨年十二月から女子勸務報隊が働いてゐます。白い手を汚つた良家の子女が三交代で二十四時間、日に夜をついで炭庫にまみれたが、増産に放闘してゐるこれら女子隊員には、晴日もすつかり感じ入つて、「女子報隊に負けた」を大言堂語としたほどです。

二月月ごと海沿の各産地から採掘された一職地を掘り出し、運搬するの



情報局募集南方刺映書籍募集 入選発表

さきに情報局第三号において募集した南方刺映書籍は五月末日募集を締め切り全受集作品三百七十一篇につき當局主務課とかねて設置された審査委員五氏とを以て慎重な審査を重ね、結果、優良賞及び情報局奨励賞とする作品を得なかつた。仕作、十名の選定を妥當と認め、左記の通り入選者を発表し。

情報局賞
一等賞 藤原 幸子
二等賞 佐藤 幸子
三等賞 佐藤 幸子
四等賞 佐藤 幸子
五等賞 佐藤 幸子

情報局賞
一等賞 藤原 幸子
二等賞 佐藤 幸子
三等賞 佐藤 幸子
四等賞 佐藤 幸子
五等賞 佐藤 幸子

よくあたる

弾丸切手

一枚二円で一等千円

第 十 八 回 出 賣 日 十 月 二 日 至 十 五 日

抽 籤 日 十 月 二 十 日

當 籤 八 枚 二 付 一 枚 割 合

抽籤の済んだ切手は
五枚以上まとめて郵便局へ
お出しの上特別据置貯金
證と引換へ下さい

寫眞週報
(無断複製)

昭和十八年十一月

日印刷發行

編輯者

情報局

東京市神田區

水田町

印刷者

内閣印刷局

東京市神田區

大塚町

所 達 申

全國各地官報

販賣所

書店・賣店

新聞販賣店

寫眞材料店

定價
一部十錢
(送料一錢)
外國郵送は依
る地域は送料
共一部十九錢
▲特大號の場合
其の都度御達
全より差額を申
受けます

本誌掲載の寫眞中、據
を特名或は提供名
の財団法人寫眞協
の製によるもので
の海軍省承認第五
製は海軍省承認第
四號です

本誌を回覧に
本誌を、編輯や出
て回覧するなど、出
来るだけ有効に御利
用下さい
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で封封あ
るは開封にして第
三種と明記すれば
一部送ります

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年十一月二日 抽籤日 十月二十日 一等千円 一枚二円 出賣日 十月二日至十五日